



千の手

犬山
つが お かのん
継鹿尾観音
寂光院

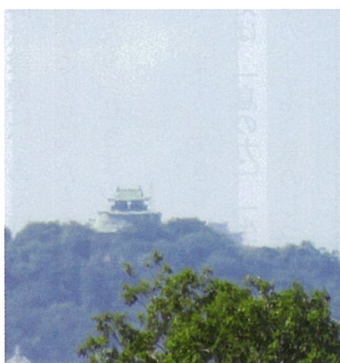
名刹巡礼古寺100選 寂光院 絶景紅葉100選

本物に出会う
仏さまに出会う
本来の自分に出会う



春は花、夏 青もみじ、
秋は紅葉、冬 凜として…
年季の入った美しさ

名勝 信長の眺めた尾張美濃 小牧山城・犬山城・岐阜城



小牧山城



犬山城



岐阜城



本堂脇展望台より三城一望

織田信長の眺めた尾張、美濃
永禄八年（一五六五）九月十八日、信長公は柴田勝家を伴い
参詣のみぎり、当山を清州城の鬼門鎮護の靈刹とされました。
この展望台からは小牧山城、犬山城、岐阜城が一望できます。

●「本物」とは、「仏様」とは

寂光院は境内全域が「飛騨木曾川国定公園・特別保護地区」にあります。「この自然環境」、これは「本物」に間違いありません。

寂光院は開山が白雉五年（六五四）の古刹です。「名利巡礼古寺百選」、古寺日本百選の一つが寂光院です。「仏様」とは、寂光院の御本尊「千手観音」様、これも間違いありません。

●「本来の自分に出会う」

では、「本来の自分」とは何かですが、「とつさに現れるのが本来の自分の姿」だと思います。例えば、世界中の人がとつさに同じことをするといえ、熱いものに触れる時でしょう。「あつーちーちー」といって、手を引つ込めます。どんなにすましておいでになる人でも熱いものに触れて、すましてはられません。皆さん飛び上がります。どなたもこれが本来の姿だと思います。

私もよく散歩に出かけます。のんきに鼻歌歌って散歩するのですが、街角に「交通死亡事故現場」という看板が立っていて、その下に花がお供えされておりますと、なぜか身を正します。そしてすつと手を合わせて一礼して、また何食わぬ顔をして散歩を続けるのです。これはとつさの出来事です。きつとこれが私の本来の姿なのでしょう。

私は全国を移動する手段として、よく飛行機を利用しました。この四十年程の間にこんなこともありました。シートベルトをして



身動き取れない座席でお隣の女性が苦しうに咳き込まれたことがありました。そこで、私はすぐその方の背中に手をまわして、背中をさすって差し上げたことがございます。女房にしたこともないことですが、これもとつさの出来事です。そんなことが出来る優しい自分に出会って、自分でも驚きました。また横断歩道をうろうろ困っているお年寄りを見つけたことがございます。私は即、走り寄って、信号が変わらないうちに向こうまで一緒に渡って差し上げたということもございました。これもとつさの出来事です。自分にもこんな親切な心があるのかと自分ながら、おかしかったことがございます。

こんな私ですが、ある時は謙虚に、ある時は優しく、ある時は親切的な、そんな仏さまのような心があるのだなと思つたものです。いやこれが人間の本来の姿なのでしょう。例外なくどなたも「仏さまの心」を頂戴して生まれて来るのです。

●命・息の力・生きる力

さて、私どもは今生きています。生きているということは命があるということですが、命とは何かといえ、**「息の力」、「生きる力」**でしょうか。私は齢八十にもなりますが、八十年間、今の今まで、息のしっぱなしで休んだことがありません。八十年間「息の力、生きる力、命」が持続して今を迎えています。ではこの「息の力」は生まれたその瞬間に頂戴したのかというところではありません。生まれる直前まで十月十日の間、母が代わりに息をしてくれていました。私のこの一息、息の力、生きる力、命は母と繋がっています。当然父と繋がっています。ではどこまで繋がっているかといえれば際限がありません。親のない子供は存在しませんから、どこまでも繋がっていきます。しかし、今があるというのは始まりがあつたとい

本物に出会う、仏様に出会う、

本来の自分に出会う

まつ だい
松平 實胤

うことですから、その始まりはどこだという回答は、人類の起源でしょうか、生命の起源でしょうか、ビッグバンでしょうか。一番の始まり「本源」といえばよいでしょうか。それをまた真言宗では「本不生（ほんふしょう）があるから滅がある。生もない、本のまま

の状態」、「大いなる宇宙」、「大いなる命」ととらえます。それを仏格化して《大日如来》、《仏》と呼んでいます。私たちは例外なく、「大いなる命、仏」から「息の力、生きる力、命」を頂戴し、連綿として絶えることなく命を受け継いで、今に至っています。

●仏さまに祈る〈祈り〉

今のこの一息は、例外なく仏様につながっているのです。ということは、私たちは「仏としてのDNA、仏性（ぶつじょう）」を頂戴し、「仏さまの心、仏心（ぶつしん）」を頂戴して生まれてくるのです。普段気付かないことですが、それがとつさに現れるのが本来の自分の姿でしょう。私たちは、いろんな場面に遭遇して、とつさに仏心にスイッチが入ります、即、仏さまのような自分に返ることが出来るのです。

最近あちこちで大規模地震が頻発していますが、殊の外衝撃的だったのが東日本大震災です。二〇一一年三月十一日午後二時四十六分、テレビの前にいた人ならどなたも、あの津波の映像に釘付けになったはずです。即仏心にスイッチが入り、例外なくどなたも一心に「サムシンググレート、大いなる力」に祈ったはずです。抗うことのできない自然災害ですが、一心に仏さまと対話を続けました。仏さまとの対話こそ、「祈り」という事だと思っています。仏心からわき起こる祈りが、仏さまに届かぬはずはありません。

● 拝むことは、拝まれている自分に気づくこと

寂光院の本堂の御本尊は沢山の手をお持ちになる千手観音さまです。しかし、「真手」といって、本来のお手は合掌しておいでになります。私が手を合わせて拝む時間はさほど長くはありませんが、私が拝んでいる間中、千手観音さまも私に向かって手を合わせて拝んでいて下さいます。しかし、お参りを終われば私は千手観音さまに背を向けて次の場所に移動します。

ある時、ふと本堂を振り返ったことがありました。その時気づいたことが一つ、千手観音さまはこの私の後姿をずっと手を合わせて拝んでいて下さる、いや私の姿が見えなくなっても、二十四時間、三百六十五日いつも私を拝んでいて下さることに気づきました。その時、大発見をした子供のようにな「そうなんだ、拝むことは拝まれている自分に気づくことなんだ」と何度も何度も大きく頷いたものでした。

またその時、「千手観音さまは『こんな私みたいなもの』を拝んでいて下さるのか？」と一瞬疑問がよぎりましたが、即座にわかりました。それは「本来の自分」、即ち私の「仏性・仏心」に向かって拝んでいて下さることに気づきました。それはまた、「何事にも仏心で事にあたれ！」という千手観音さまのメッセージのように思えてきました。



左から



正面から



右から



七福坂入口

八方お迎え大師

さてこの程、七福坂の第一段目の正面に新たに「八方お迎え大師」様がお目見えされました。この「お迎え大師」様、とても不思議なお顔をしておっしゃいます。私達がどこから「お迎え大師」のお顔を拝んでも、拝む人の方を必ず向いて下さるのです。正面から拝めば当然拝む自分の方を見て下さいます。しかし、右から拝もうが、左から拝もうがその人のお顔の方に向いて下さるのです。背の高い人が拝んでもその人の顔を見上げて下さいますし、小さいお子様でしたら、その子の顔をしっかりと見てくださいます。どの角度からでも自分を見て下さる不思議なお大師様ですので、「八方お迎え大師」様と申されます。先ほど「仏様を拝む事は、仏様に拝まれている自分に気付くこと」だと申しました。それを実感して戴けるような「お迎え大師」様です。次のご参詣の折には、ゆっくりと「お迎え大師」を拝んで下さい。

特別御朱印 初公開

●絵解き「つがおさん継鹿尾山縁起絵図」

(本尊・千手観音縁起)

継鹿尾山寂光院は尾張最古刹で、開山は白雉五年(六五四
年)でございます。寂光院の御本尊千手観音様の由来を絵図
にした「つがおさん継鹿尾山縁起」が今回の「特別御朱印」となりました。

ある朝のこと、金色に輝く大きな「つがおさん鹿」が岩の上に伏せて
おった。矢を放ったが、余りの眩しさに手もとが狂い、矢は
鹿の「つがおさん尾」に当たる。尾は切れて天空高く舞い上がるも、また
元の体に「つがおさん継」がった。すると鹿は何事もなく山中に姿を消す
が、岩の上からは金色に輝く一寸八分の千手観音像が転げ落
ちた。(※1)

寂光院の御本尊千手観世音菩薩には「胎内佛(一寸八分
(五、五^分)の千手観音像)」が内蔵されております。(※2)
この「胎内佛」の縁起を描いたものがこの度「特別御朱印」
となりました。

※1この縁起は寂光院の現住所である犬山市大字継鹿尾の地
名の由来でもあります。これは愛知の民話「不思議な鹿の尾」
として、古来より語り継がれてまいりました。(愛知県教育
振興会刊「あいちむかしばなし」令和八年六月二十五日刊・
所収)

※2この「胎内仏」は、当初より山上・本堂の万一の火災や
自然災害に備えて、普段は山麓・内仏堂内の多宝塔に納めら
れております。
毎年三月五日に「胎内佛」は特別大開帳「おいいただき」で一
般公開されます。



限定御朱印 11/1 ~ 12/25

●「秘仏 千手観世音」

寂光院は、山寺の常で火災に遭遇すること
一再ならず、現在の御本尊・千手観世音菩薩
は室町時代後期の作と伝えられております。
この御本尊は六十年に一度、甲子年に御開帳
される秘仏で、前回は昭和五十九年甲子年が
その吉年でございます。その後平成五年秋、
名古屋博物館の依頼により、門外不出の御
本尊でしたが名古屋博物館に特別公開され
ました。この「千手観音像」はその時の記録
として残された貴重なものでございます。当
然のこと、秘仏・千手観世音菩薩は現在本堂
「耐震・耐火厨子」に納められ、次の甲子年
(二〇四四年)迄直接参拝することはできま
せん。そこで、寂光院山主の英断でこの度、
特別御朱印として授与させて戴くことになり
ました。

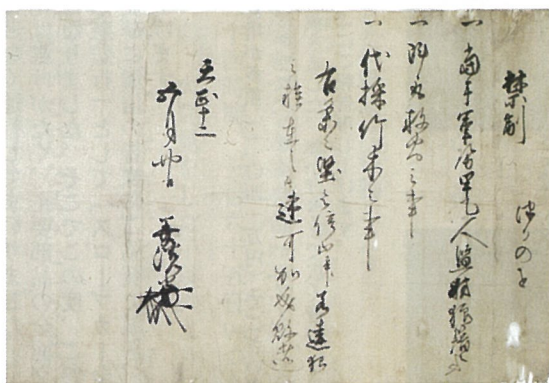


NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟」と特別展

令和8年のNHK大河ドラマ、豊臣秀吉と秀長「豊臣兄弟」が今話題ですが、名古屋市博物館では9月5日（土）～11月1日（日）「特別展 名古屋には秀吉がおるでよ！—秀吉と尾張の歴史—」が開催されます。今回、「小牧・長久手の合戦」の年、天正12年（1584年）5月4日に寂光院に出された「羽柴秀長禁制」(寂光院蔵)も展示されます。

羽柴秀長禁制

〔解説〕天正十二年三月から、秀吉は織田信雄・徳川家康の連合軍と合戦を始めます。秀吉は犬山に入り、楽田城を本陣としました。この禁制は兄秀吉を補佐した秀長が楽田城から東北に位置する寂光院を保護するために、味方の軍勢の陣取りや放火などを禁止するために出されたものです。



○羽柴秀長禁制

禁制 つかのお

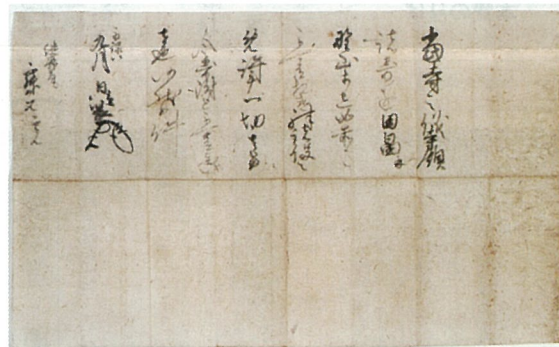
- 一、当手軍勢甲乙人、濫妨狼藉之事、
- 一、陣取、放火之事、
- 一、伐採竹木之事、
- 右条々、堅令停止畢、若違犯之族在之者、速可加成敗者也、

天正十二

五月四日 美濃守（花押）

今回の「羽柴秀長禁制」もさることながら、寂光院が代々「寺宝」として大切に保存してきたものに〈織田信長判物〉がございます。

織田信長判物



○織田信長判物

当寺之儀、寺領

諸寄進田畠并

野山等迄、如前々之

不可有相違、殊諸役令

免許畢、一切其方

令寄附上、不可有異儀

者也、仍狀如件、

永禄八 九月 日 信長

繼鹿尾

寂光院

（花押）

〔解説〕これは織田信長が、永禄八年（一五六五年）九月十八日寂光院の寺領・寄進地・山野をこれまで通り寂光院が支配することを認めた書状、いわゆる安堵状であります。

この判物の由来を郷土史家・横山住雄氏は「織田信長の尾張時代（戒光祥出版）」に次のように書き記しています。

永禄八年七月、犬山城を攻略した織田信長が美濃攻めに入ろうとした時、この付近の地形を熟知していた寂光院の住職（中興開山慶源）が、猿啄城（※）攻略部隊を先導案内した功績によって与えられた文書と伝えられる。その後堂洞城（※）攻めを果たし、永禄八年九月十八日に信長は寂光院千手観音へ参詣し、その際、山林等安堵の証文与える約束をし、「早速小牧に参れ」とのこと、小牧でこの証文をもらったという（尾張御行記・継鹿尾村条）。

証文の文面は次のとおり（原文文）

当寺のことは、寺領や諸々の寄進の田畠（※）及び野山等まで、前々のとおりとする。ことに諸役（諸税）は免除する。一切その方に寄進するので問題ない。よってこの通りである。

永禄八

九月 日

信長 麒麟花押（※）

継鹿尾

寂光院

※猿啄城は、木曾川河畔にある継鹿尾山寂光院の対岸にある岐阜県坂祝町木曾川河畔に位置する

※堂洞城は岐阜県富加町に位置する

※黒印五〇石、山林五〇町歩と伝承される

これ以後、寂光院は羽柴秀長禁制を始め、慶長六年

（一六〇二）には犬山城主の小笠原吉次が田畑と山林を安堵、後の尾張藩も寺領、山林等を「黒印地並（非課税地）」として認めていた

※この判物の「麒麟花押」は他の信長文書に見られない独特のものとなる

令和七年度 九万九千日記念慈悲行

●平成二十二年六月開設以来、満十五年！

「スロープカー全面改修」事業・完了

経年劣化のため、主要部品全面取り換え、部品全面交換、全線トロリー交換

スロープカー運行開始より十五年間、常に安全安心な乗り物として、定期点検並びに部品交換、通常点検を怠ることなく運行してまいりました。

しかし、十五年の経年劣化は避けがたく、主要部品の全面交換、トロリー設備の全面交換など、急を要する事態となりました。そこでこの度、ご参詣信徒の皆様への「安全安心な運行」に資する「記念慈悲行」として「スロープカー全面改修」を発願致しましたところ左ページ各企業様並びに篤信の皆様にご協賛を戴き、無魔完了いたしました。ここに衷心より御礼申し上げます。

寂光院山主 松平實胤

※追記 本事業は例年になく、費用が多額（一、〇四一万円）でございましたので、令和七年十一月十五日より、翌八年一月十三日迄、クラファンサイト・キャンプファイアーを通じて「クラウドファンディング」でご支援をお呼びかけ戴きました。おかげさまで広く皆様にスロープカーに関心を寄せて下さるきっかけとなりました。ここに報告申し上げます。



山麓のりば



本堂のりば

令和八年度 九万九千日記念慈悲行

●昭和三十四年伊勢湾台風で全壊

【天弓愛染堂】再建事業・発願

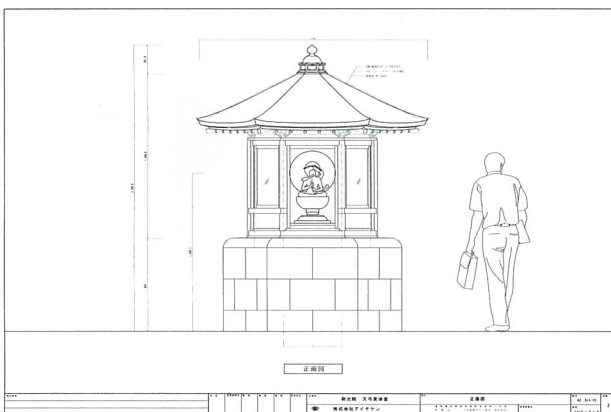
昭和三十四年九月二十四日、当山を襲った「伊勢湾台風」は継鹿尾山の山の形を変えたと言われる程の甚大の被害をもたらしました。伽藍の半数程が倒壊、未だ復興できない堂宇もございます。

その一つが「尾張名所図絵（天保十二年（一八四一年）撰）・継鹿尾山寂光院図」にも描かれる「愛染堂」でございます。以来六十七年、再建は悲願でしたがこのほど「機縁」熟し、「再建の浄地」も整いましたので、ここに再建を発願いたしました。新愛染堂にお迎えする御本尊は「大願成就」「万民豊樂」の靈験あらたかな「天弓愛染明王」（京仏師・村上湛雲作）でございます。現在は「聖徳殿の写経殿」にお祀りされております。悲願でありました「愛染堂」が再建できますよう、皆様の御信援ご協賛の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

寂光院山主 松平實胤

天弓愛染堂・再建予想図

◎建立予定地・七福坂参道南面



大願成就・天弓愛染明王



令和七年度 九万九千日記念慈悲行 順不同敬称略

◎大慈悲会員

可児市
(株)庭萬

◎慈悲会員

福玉精穀倉庫(株)
福玉(株)
福玉米粒麥(株)
福玉ロジステイクス(株)
(有)マルカメ

犬山市

(株)犬山動物総合医療センター
(福)ともいき福祉会
(株)ともいき
(有)もちたけ

名古屋市

(株)坪井利三郎商店
福生院

岡崎市

AOI税理士法人

小牧市

社本 宮明

春日井市

塚田 光春

知立市

近藤 釵一

小牧市

(株)アルヴェスタ

◎篤志会員

犬山市

(医)全医会 あいちせぼね病院
(株)キトウ商会

桑原木材(株)

(株)新栄工業

(株)東海SUNKEY

センガ(株)

(医)竹内整形外科クリニック

(株)はぐろ薬局

扶桑町

(株)名古屋モウルト

大町

タイム技研(株)

名古屋市

田中産業(株)

名古屋市

(株)吉香

名古屋市

シヤチハタ(株)

一宮市

(株)竹中工務店 名古屋支店

多治見市

中山工業(株)

犬山市

名古屋鉄道(株)

扶桑町

名古屋工業(株)

大町

万年堂

春日井市

リテック徳倉(株)

春日井市

東海企業(株)

名古屋市 原啓印刷(株)

◎協賛会員

犬山市

(資)犬山衛生社
犬山建設(株)

(有)大野屋

小島鋳金工業(株)

澤野プロパン(有)

白帆スタジオ

(株)タイセイ

大和企画(株)

(有)寅屋

花の香花園

(株)本多石材店

美乃又住宅設備(資)

同みやこや

(株)メイデン

(有)米正商店

扶桑町

大町

(株)いずみ

名古屋市

三栄商事(株)

(医)高田

(有)花貴久

江南市

(株)アイチケン

八王子市

三伸商事(株)

水戸市

(株)三愛工芸

犬山市

堀江 綾子

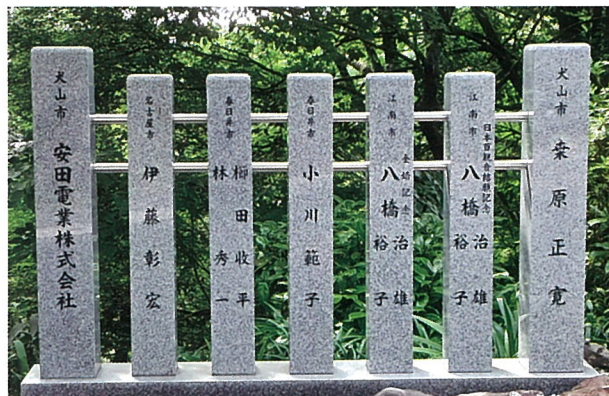
名古屋市

大橋 収身

篤志玉垣



特別玉垣



〈四季の鉢植え〉

関 市 井戸真知子

〈蓮華〉

各務原市 二宮 愛子

寂光院友の会

千手会

心豊かに生きる喜び

皆様の御信援をお願い申し上げます

静寂な山寺で

お写経なさいませ!!

静かに瞑想なさいませ!!

きりとり線

電話 氏名 住所 〒

年 月 日

おとし

賛助会員 (一口三万円) 口 円

正会員 (一口三千元) 口 円

千手会申込書 (特典はホームページをご覧ください)

右申込致します

きりとり線

— お出かけ案内(月例行事)仏教を体験する —

5日	10:30	なな七七月まいり だいずいぐ大随求菩薩ご縁日 大護摩祈禱、やすらぎ法話
18日	10:30	なな七七月まいり 千手観音ご縁日 大護摩祈禱、やすらぎ法話
第1・3 日曜日	11:00	月輪観(瞑想)&写経(要予約) 静かな仏前で本来の自分に会おうひととき!
第2 日曜日	11:00	やすらぎ説法(松平實胤山主)
第2・4 日曜日	10:00	お写経の集い〈般若心経を読む聞く書く〉
第3 土曜日	13:00	写仏教室〈仏さまを描く〉 講師 前田道雄先生(中日文化センター講師)

ななつき
七七月まいり(心を養う)

仏教では「七」という数字は「満数」といい、最高・最上を表わします。寂光院の「七七月参り」は月参りを重ねることに「最高の状態に向かう」、「願い事が成就する」という大変有り難いお参りです。お始めになりませんか。

○ 五日 健康長寿 だいずいぐ大随求菩薩縁日
○ 十八日 一心祈願 千手観世音縁日
大護摩祈禱と松平實胤山主の「やすらぎ法話」

「縁の日」が「縁日」

ななつき
七七月まいりは「月参り」です。いつでもご都合のよろしい日
が「縁の日(縁日)」【七七月まいり】の【受付は年中無休】です。

月例大護摩祈禱〈祈りの浄火〉

毎月五日・十八日、午前十時半



●ご祈禱志納 五、〇〇〇円以上

(大護摩礼授与・ご郵送も可)

●ご祈禱申込 当日の十時迄にFAXかお電話で



発行 継鹿尾観音 寂光院

住所 〒484-0091 愛知県犬山市継鹿尾字杉ノ段12番地 電話 0568-61-0035 FAX 0568-61-5953

〒振替 00800-4-40664 Eメール i.matsudaira@jakkoin.com

寂光院ホームページ 犬山寂光院 検索

